

社会ソリューションイニシアティブ シンポジウム開催 「いのち」を大切にする「まちづくり」とは？

大林組会長 大林剛郎氏と専門家 18 名が中之島に集う！

—大阪・関西万博への提言創出へ！—

【5/8(木)13:30~@中之島センター およびメタバース】

❖ 概要

大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)は、5月8日(木)に、大阪・関西万博のテーマ「いのち 輝く未来社会のデザイン」の具体化に向けた提言創出を目指すシンポジウム『「いのち」を大切にする「まちづくり」とは？』を、大阪大学中之島センターでの対面開催とメタバース(VRChat)によるハイブリッド開催いたします。

今回のシンポジウムは第一部の基調対談と第二部のグループディスカッションの二部制で実施します。未来社会を構想するシンクタンクである SSI が、いのち会議、大阪大学先導的学際研究機構「新たな防災」を軸とした命を大切にする未来社会研究部門(New-POD)、一般社団法人 生産技術振興協会との共催により、「いのち」を大切にするまちづくりに関する議論を多くの専門家と繰り広げます。また、本シンポジウムは、大阪大学中之島センター(現地)とメタバース(オンライン)の両会場から参加が可能です。

当日は、取材いただけるメディアの方に、撮影いただけるスペースも設けています。

つきましては、本イベントの積極的なご周知と当日のご取材・出席をお願い致します。

第7回 SSIシンポジウム



「命」を守り「いのち」を継承するまちづくり

❖ **第7回 SSI シンポジウム『「いのち」を大切にする「まちづくり」とは?』 概要**

※イベント詳細は2ページ以降をご覧ください

【日 時】 2025年5月8日(木) 開場 13:00、開演 13:30 ~ 17:00

【場 所】 対面会場とメタバース会場のハイブリッド開催

・大阪大学中之島センター(対面会場)

大阪市北区中之島4丁目3番53号

・メタバース(VRChat)

【定 員】 200名(対面150名+メタバース50名)

【参加申込】 <https://forms.office.com/r/dGJTcXKeNt>

【主 催】 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)

【共 催】 いのち会議

大阪大学先導的学際研究機構

「新たな防災」を軸とした命を大切にする未来社会研究部門(New-POD)

一般社団法人 生産技術振興協会

【第一部登壇者】 2ページおよび5ページを参照

【第二部登壇者】 3ページおよび5~8ページを参照

❖ **第一部(概要)**

基調対談「都市とアートと人の役割~「いのち」を大切に想う感性とは~」

第一部の登壇者



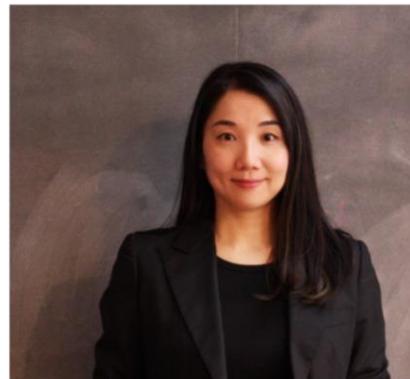
大林 剛郎 氏

株式会社大林組 取締役会長
兼 取締役会議長



木多 道宏

大阪大学 大学院工学研究科
地球総合工学専攻 教授



松本 文子

大阪大学 大学院工学研究科
地球総合工学専攻 特任准教授

基調対談では、大阪にルーツを持つ株式会社大林組 取締役会長 兼 取締役会議長であり、都市研究を支援する大林財団の設立理事長でもある大林 剛郎氏をお迎えし、本学の教授で、都市計画やまちづくりを専門とする木多 道宏と、本学の特任准教授で、アートプロジェクトによる地域振興を研究する松本 文子とが、肉体的な「命」・精神的な「いのち」を大切にする都市のあり方について、アートや科学技術の可能性を交えながら語り、未来の姿を探ります。

❖ 第二部（概要）
グループディスカッション「みんなで考える『命』と『いのち』を守るための取り組み」

第二部では、「肉体的な『命』を守る防災と精神的な『いのち』を継承する防災をどのように実現していくか」について、以下の3つのテーマでグループディスカッションを行います。

- グループA【**科学技術**でつなぐ「命」+「いのち」】
- グループB【**アート**でつなぐ「命」+「いのち」】
- グループC【**空間**でつなぐ「命」+「いのち」】

各グループには、それぞれのテーマに関連した本学の研究者や、豊富な経験を有する民間企業や自治体の実務家、アーティストの方々が参加します。都市における「いのち」の課題にどう取り組むか。具体的な解決策を専門家たちの多彩な知識で探る試みです。

❖ イベント詳細
<プログラム>

13:30	開会あいさつ	大阪大学総長補佐・SSI長・特任教授（常勤） 堂目 卓生
13:40	第一部 基調対談 テーマ：都市とアートと人の役割 ～『いのち』を大切に想う感性とは～	登壇者： <ul style="list-style-type: none"> 株式会社大林組 取締役会長 兼 取締役会議長 大林 剛郎 大阪大学総長補佐・SSI副長・大学院工学研究科 教授 木多道宏 大阪大学大学院 工学研究科 特任准教授 松本 文子 司会： クロスメディア・コミュニケーションズ株式会社 藤本 真未
15:00	休憩（参加者は10階から6階に移動）	
15:15	第二部 グループディスカッション テーマ「みんなで考える『命』と『いのち』を守るための取り組み」	グループA【 科学技術 でつなぐ「命」+「いのち」】 <ul style="list-style-type: none"> Give Space 提唱者・アーティスト 井口 奈保 貝塚市 総合政策部 行財政管理課 参事 兼 公共施設マネジメント室長 七野 司 青森大学 ソフトウェア情報学部 教授 下條 真司 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 みらい研究所 研究所長 富士榮 尚寛 大阪大学大学院 人間科学研究科 教授 渥美 公秀 大阪大学 共創機構 特任教授（常勤） 新藤 一彦 グループB【 アート でつなぐ「命」+「いのち」】 <ul style="list-style-type: none"> 株式会社アートログ 代表取締役 CEO 鈴木 大輔 大阪ガス株式会社 エネルギー文化研究所 所長代理 山納 洋 大阪大学大学院 工学研究科 特任准教授 松本 文子 大阪大学大学院 人間科学研究科 助教 石田 海

		<ul style="list-style-type: none"> 大阪大学大学院 工学研究科 助教 金 徳祐 <p>グループC【空間でつなぐ「命」+「いのち」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社コンティニューム・ソーシャル 代表取締役 泉 征弥 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 みらい研究所 リードスペシャリスト 岡本 俊一 株式会社 With Midwife 代表取締役 岸畑 聖月 大和リース株式会社 民間活力研究所 専任課長 小林 秀人 大阪大学 先導的学際研究機構/工学研究科/国際機構 招へい教授 堤 研二
16:10	各グループ発表・ゲストコメント	
16:40	総括と閉会のことば	大阪大学総長補佐・SSI長・特任教授（常勤） 堂目 卓生

※登壇者のプロフィールについては5～8ページを参照

❖ 特筆事項

会場の収容人数が約150人までとなっておりますので、参加・取材希望が多い場合は、受付を終了させていただきます。可能性がございますことをご了承ください。

❖ 取材申込について

※本イベントについて、ご取材いただける際は、会場設営の関係上、4月30日（水）24時までにWeb登録フォームから申請をお願いします。

登録フォーム

<https://forms.office.com/r/RCHnx8CHfC>

取材登録フォーム「『命』を守り
『いのち』を継承するまちづくり」大阪大学第7回SSIシンポジウム



<登壇者プロフィール>

基調対談	
大林 剛郎	公益財団法人大林財団理事長。株式会社大林組 取締役会長 兼 取締役会議長。慶応義塾大学卒業後、1977年、株式会社大林組入社。2009年会長に就任。森美術館理事、原美術館評議員、パリ・ポンピドゥー・センター日本友の会代表、英国テート美術館およびニューヨーク近代美術館 (MoMA) のインターナショナル・カウンシル・メンバーを務める。著書に『都市は文化(アート)でよみがえる』(2019年、集英社) 現代アートのコレクターとしても有名。
木多 道宏	大阪大学大学院 工学研究科教授 (建築・都市計画論領域)、博士 (工学)、一級建築士。同大学大学院工学研究科建築工学専攻修士課程修了、株式会社日建設計、大阪大学工学部建築工学科助手等を経て、2012年より現職。専門分野は建築計画・都市計画・地域コンテクスト論。近年は、自然災害・戦災・紛争・貧困・改変などを乗り越えて生き続ける都市・地域の「大きないのち」を継承するまちづくり、文理を越えた学際連携による建築学の拡張の試みなど。
松本 文子	大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻 特任准教授、Study: 大阪関西国際芸術祭コ・メディアトゥール、国立民族学博物館 共同研究員。博士 (地球環境学)。BIWAKO ビエンナーレや大地の芸術祭の運営やアーティストのアテンドに携わった経験をもとにアートプロジェクトによる地域振興について、ソーシャル・キャピタル、創造性、寛容性からアプローチした効果測定を研究。ソーシャル・イノベーション、地域計画などを教える。一般社団法人 workshop space Apprendre 代表として市民向けのワークショップも企画。

グループディスカッション	
井口 奈保	エコロジカルアーティスト、Give Space 提唱者 ベルリン在住。働き方、住む土地、時間、お金、アイデンティティ、都市、地球エコシステムー人間社会を構成するさまざまな要素と人間との関係性について実験し、生き方そのものをアート作品にする。近年は南アフリカへ通い、「人間という動物」が地球で果たすべき役割は、他の生き物に土地を還すことだと発見、「GIVE SPACE アーバンデザイン方法論」を創造中。
七野 司	貝塚市 総合政策部 行財政管理課 参事・大阪大学大学院 工学研究科招へい教員。 岸和田市大工町のだんじりの大工方を18年つとめた。2017年大阪市立大学大学院修士課程修了。顕在化しつつある公共施設やインフラの老朽化問題に関して、自治体の枠を越えた広域連携や官民連携の取組みを通じ、市民のいのちを守る取組みを推進している。
下條 真司	青森大学 ソフトウェア情報学部 教授。 大阪大学基礎工学部教授、同大学サイバーメディアセンターの要職を経て、2023年より青森大学ソフトウェア情報学部教授。マルチメディア情報システムのアーキテクチャ研究に従事、研究の社会実装

	<p>を通じてアーキテクチャを研究するスタイルを取る。2024年より公益財団法人地球環境センター理事長。現在うめきたで情報を可視化して社会貢献する産学連携 Vislab Osaka を主催。</p>
富士榮 尚寛	<p>伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 みらい研究所 研究所長・大阪大学大学院 工学研究科 招へい教員。</p> <p>2001年伊藤忠テクノソリューションズ株式会社入社後、顧客システムの構築・開発に関するプロジェクトの要職に従事。一般社団法人 OpenID ファウンデーションジャパンに参画し 2021年同代表理事に就任。国際標準化と日本国内における安全な API エコシステムの普及・啓発活動を推進している。</p>
渥美 公秀	<p>大阪大学大学院 人間科学研究科 教授。</p> <p>2010年大阪大学大学院人間科学研究科教授。認定 NPO 法人 日本災害救援ボランティアネットワーク 理事長。阪神・淡路大震災罹災時の避難所などでのボランティア活動参加を契機に災害ボランティア活動の研究と実践を続けている。</p>
新藤 一彦	<p>大阪大学 共創機構 特任教授。</p> <p>1991年 NTT 入社。NTT 研究所にて主にエネルギー系の研究開発に従事。1997年から沖縄の環境・エネルギー研究調査に関わり、NTT 沖縄研究ラボ開設などを推進。NTT 退職後、大阪大学特任教授としてイノベーション創出等を担当。</p>
鈴木 大輔	<p>株式会社アートローク 代表取締役 CEO・大阪大学 SSI 招へい研究員。</p> <p>大阪市立大学都市研究プラザのグローバル COE に於ける研究プロジェクトを経て起業。(公財) 京都高度技術研究所の「京都ビジネスデザインスクール」TA。「TechCrunch Tokyo 2018」ファイナリスト。第25回参議院議員通常選挙時、全ての候補者に「文化芸術マニフェスト」を問うた「ManiA (マニア・Manifest for Arts)」で第14回マニフェスト特別審査員特別賞を受賞。</p>
山納 洋	<p>大阪ガスネットワーク(株) エネルギー・文化研究所所長代理。</p> <p>1993年大阪ガス(株)入社。複合文化施設、ビジネスインキュベーションでの企画・プロデュース業務を歴任。トークサロン企画「Talkin' About」、まち観察企画「Walkin' About」、カフェ空間のシェア活動「common cafe」「談話室マチソワ」などをプロデュースしている。</p>
松本 文子	<p>大阪大学大学院 工学研究科 特任准教授。</p> <p>※上記、基調対談のプロフィールをご参照ください</p>
石田 海	<p>大阪大学大学院 人間科学研究科 助教。</p> <p>声楽を専攻していたが、歌唱や演奏よりも人が音楽を知覚する過程に興味を持つようになり、大学院進学を機に、大阪大学で音楽と脳の常識に挑む独自の研究、「予測」音楽理論に取り組むこととなる。第15回日本学術振興会・育志賞を受賞。</p>
金 徳祐	<p>大阪大学大学院 工学研究科 助教。</p> <p>建築計画・都市計画を専門とし、特に、美術館環境における鑑賞者の記憶や心理の研究や、地域における回復環境と場所愛着の研究を進</p>

	<p>め、人々の心身に好影響を与える構築環境のあり方を多角的に捉え、を大切にす未来社会づくりへの貢献を目指している。</p>
泉 征弥	<p>株式会社コンティニューム・ソーシャル 代表取締役・大阪大学 大学院工学研究科招へい教員。</p> <p>日本興業銀行を経て、米系株式数理運用会社でロングショート戦略を含むモデルの開発・運用に従事。後に CIO としての職務も執行。その後、CDS としてバイジアンネットワーク応用のデータサイエンスサービス会社やバイオ系スタートアップの支援などを手がける。カナダトロント発の当時世界最大の産業向けブロックチェーンプラットフォームを運用する DLT Labs の日本法人設立・代表を務め、日本でのビジネスを軌道に載せた。2022 年からカナダの Web3 ジオソーシャルサービスを提供する Continuum.Social Inc. に参画、現在に至る。元国際金融都市 Osaka 推進委員会アドバイザー。</p>
岡本 俊一	<p>伊藤忠テクノソリューションズ(株) みらい研究所 リードスペシャリスト・大阪大学 大学院工学研究科 招へい教員・情報サービス産業協会 技術委員会 データ流通部会 部会長・OpenID ファウンデーション・ジャパン 法人 KYC 分科会 サブリーダー。</p> <p>金融業界を中心に約 20 年、業務システム全般、BPR や DX、プロジェクトマネジメント等を経験した後、約 10 年、企画部門の部長職を経て専門職として、デジタルトラスト・アイデンティティを軸足に、20～30 年後の先も見据えながら、社会課題の解決に繋がるアカデミア等と協働の研究取り組みや、業界活動を取り組み中。</p>
岸畑 聖月	<p>株式会社 With Midwife 代表取締役。</p> <p>14 歳の闘病の経験から助産師を志し、助産学・経営学を学ぶため京都大学大学院医学研究科に進学。年間約 2,000 件のお産を支える総合病院で助産師として臨床経験を積みながら、2019 年株式会社 With Midwife を創業。女性活躍や健康経営を包括的にサポートする、伴走型従業員支援プログラム「THE CARE」などを展開し、伊藤忠商事やロート製薬など全国的に導入が進んでいる。また一連の活動を追ったテレビ東京系列「孤育て」は 2022 年度ドキュメンタリー優秀賞を受賞し、SNS では 60 万回以上再生されている。</p>
小林 秀人	<p>大和ハウス工業(株)を経て大和リース(株)にて新規事業推進、商品開発を担当・大阪大学 大学院工学研究科 招へい教員。</p> <p>これまで、合板活用簡易建築開発、植物による土壌浄化研究、FRP 製住宅の開発、木造・木質非住宅の開発、災害活動用移動ユニット開発、インドネシア低所得層向け住宅開発・普及事業等を行う。現在、民間活力研究所にて公民連携事業の研究・実施を担当、日本防災産業会議企画運営委員、日本防災プラットフォーム幹事会員、大和ハウスグループ応急仮設住宅供給チーム事務局。国土交通省「空き地等の新たな活用に関する検討会」委員他。防災士。</p>
堤 研二	<p>大阪大学先導的学際研究機構/工学研究科/グローバルイニシアティブ機構 招へい教授</p> <p>島根大学法文学部助教授、大阪大学人文学研究科教授を経て 2025 年</p>

4月より現職。社会経済地理学において人口流出地域の社会と経済の変動を分析。「地域空間の縁辺化」という概念を中核に、縁辺地域論、エージェント論、ソーシャル・キャピタル論を展開。実践的に人口減少社会での地域連携に関与するため、地域に根ざしたスポーツ少年団活動にも力を注いできた。

<開会・閉会>

堂目 卓生

大阪大学総長補佐・SSI長・特任教授（常勤）。経済学博士。専門は経済学史、経済思想。産業革命期イギリスの経済現象を当時の人びとがどう捉え、未来社会をどう描いたか、その中で経済学がどのように形成されたかを研究。立命館大学経済学部助教授を経て、2001年大阪大学教授。2018年、大阪大学の人文・社会科学の研究者を中心に、社会課題に向き合い2050年の社会を構想するシンクタンク「社会ソリューションイニシアティブ（SSI）」を立上げ、代表を務める。2019年、紫綬褒章を受章。